

Title	研究発表會記事
Sub Title	
Author	伊東, 乾(Itō, Susumu)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1948
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.21, No.7 (1948. 7) ,p.62- 62
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	報告
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19480701-0062">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19480701-0062</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 研究發表會記事

我々が、會誌の發行と並行して、研究發表會を催し、會員相互の討論を繼續してゐることは、第三號編集後記に紹介せられてある通りであるが、その後昭和二三年度に入り、更に次のやうな日程を加へることとなつた。

二三・四・三〇 不當利得に於ける公益と私益との調整

高鳥 正夫

二三・五・二七 アメリカ革命と新聞

生田 正輝

二三・六・一八 生産管理の法理

須藤 次郎

二三・六・二五 ニュージーランドの憲法

宮尾 誠二

右はすべて非公開でこれを行ひ、會員相互の検討に委ねるものであるが、今春初頭來、試みにこれを塾内に公開し、學生諸君の聽講を得て、一層反省の機會を多くしては如何との議起り、六月二十九日（火）十一番教室に於いて、初の公開發表會を開催した。

當日は午前十時、會長小池博士の挨拶に始まり、先づ會員米山教授「輿論状態の分析」と題し、十數點の圖解を用ゐて、輿論状態の規定と把握方法とを論じ、次いで會員手塚助教「明治時代の妾」と題し、婚姻の要件・效果等の各方面から明治法

制上の妾の地位を検討し、その廢止過程を辿つた上、廢妾の意義を論定、休憩に入る。

午後は一時再開、會員中村助教「精神分析學と政治理論」と題し、主としてフロイド學說の紹介を試み、會員前原教授は、「船舶の敵性に關するフランス主義に對する誤解」と題し、從來國族主義をフランス主義と通稱し、無反省に英米主義と對立せしめてゐることの誤謬を指摘、一七世紀から第一次大戰までの佛國の立法・判例等を分析して、國族主義がその一時的な偏向に過ぎないことを論定。——終つて質疑討論に入り、研究發表會主任米山教授の挨拶を似て三時過閉會。

教授會が同日に重なつたため、會員の出席は、小池・前原・宮崎・米山・内山・中村・手塚・伊東・生田・高鳥・須藤の十一名に過ぎなかつたが、學生諸君の來聽は案外に多く、一時は教室の定員を遙に超過した。

かやうな催しが、一種の學究的雰囲気醸成し得て、會員にとつても、學生諸君にとつても、力強い刺激と激勵となるのであるならば、研究發表會の意義は倍加せられるわけであり、その最初の試みが、學生諸君の支持を得て、一應の成功を收めたことは、洵に幸福なことであつた。併し同時に、會員にとつては、研究内容の制約、討論の餘地その他について、考ふべき二三の重要な問題が残されたことを、看過出來ないのであつて、今秋以降この試みを繼續すべきや否には、更めて検討の餘地があらう。(伊東記)